

令和7年度学校・家庭・地域連携総合推進事業 目標シート

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 実施自治体名   | 課題の類型1    | 課題の類型2             | 背景・現状・課題の詳細   | 左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組   | 左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組  | 本事業で達成する目標(アウトカム)  | 目標の達成度を測る指標                              | 現状の数値 | 単位  | 本年度の目標値 | 実績値   | アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等) |
|----------|-----------|--------------------|---|---|---|--|--|-------|-----|---------|---|--------------------------------------|
| 05215仙北市 | ①学校運営上の課題 | 02 社会に開かれた教育課程への対応 | 学校と地域の連携・協働により行う子どもたちの学び、学校運営、学校の活動の地域への浸透を目指して、教職員の研修、地域協働活動推進員(以下推進員)の情報交換会・研修会、保護者や地域への広報活動等を行ってきた。その結果、推進員やボランティアの活動回数は多くなってきている。しかし、学校間で差があり、活動の充実やねらいの達成度、教職員の協働活動への理解、地域への広がりなどがまだ十分とはいえない状況である。 | バックアップ事業の具体的な活動の内容・活動人数と推進員の活動記録の精査を行い、協働活動として取り上げられるべきデータを表にまとめ、学校、推進員、公民館、教育委員会で共有する。<br>バックアップ事業の登録者について、許諾を得られた方々を他校の推進員や学校にも情報を提供し、学校相互にボランティアに依頼できる状況を構築していく。   | 年度当初に生涯学習課、公民館、北浦教育文化研究所(以下研究所)の関係者で市内の各学校を訪問して、市の目指すコミュニティスクール・地域学校協働活動を説明して、学校と運営協議会の委員、推進員、市の担当者との連携の仕方等について話し合った。<br>市では、地域ボランティアの登録事業を「バックアップ事業」として行ってきており、研究所で登録をしている。推進員と登録者が連携できるように事業のねらいや進め方をまとめた資料を用いて共通理解を図った。  | 地域・学校の連携・協働による活動を通して、子どもたちの学びを充実させ、地域に対する愛着や誇りに思う気持ちを醸成する。それとともに、地域のネットワークづくりを促進し、元気な地域づくりにつなげていく。<br>協働活動の推進・充実のため、教職員に対する研修等の実施と、学校と推進員のコミュニケーションの実施・充実を進める。 | 協働活動に参加する地域ボランティアの人数を、活動の実施や充実度を図る指標とする。 | 296人  | 350 | 429     | 令和7年度教職員の集いにおける地域学校協働活動(以下協働活動)において、地域学校協働活動推進員(以下推進員)に参加してもらった。また、3名の推進員には、自身が携わった協働活動について実践の発表をしてもらった。また、推進員協議会において、自分の所属する学校以外にも出向いたり、ボランティアを紹介することのよさを話し合ったりして意識を広げた。<br>実際の取組では、家庭科の裁縫の学習やミシンの学習について、ボランティアの人数が多いほど子どもたちに力をつけやすいことがわかり、複数校で他地域のボランティアを活用することに取り組み、評価が上がった。また、老人クラブや生涯学習奨励員、放課後児童クラブなど、他の組織と連携して子どもたちとモルックやグラウンドゴルフなどのスポーツをしたり、PTA活動で地域の方々を学校に呼び込む活動をししたりすることで、学校と地域の連携をより図ることができている。429名のボランティアが活動した。<br>今後、同様の活動を更に進めるために、地域への広報活動や学校訪問、校長会、教頭会、教職員の集い等での学校への周知を図ることで活動を増やしていきたい。 |                                      |
| 05215仙北市 | ①学校運営上の課題 | 02 社会に開かれた教育課程への対応 | 子どもたちが学習のねらいを達成しやすくなるために、地域ボランティアと協働して活動する取組をしてきた。しかし、ねらいを達成するためには、実際に活動を計画する教職員がどれだけの協働活動を理解しているかが重要である。協働活動の実践には学校間で差があることが課題である。   | 市内の教職員が集まる機会(教職員の集い結果を各校に伝える)に、各校の推進員にも参加してもらい、アンケート結果、各校の代表的な協働活動等を紹介しながら研修を行い、ハンドブックを読んでもらえるように促す。<br>9月頃に推進員協議会を開催して、各校との連携がどのように変化してきたか話し合ってもらおう。<br>推進員がボランティアを募集する際に、活動のねらいを示せるように、学校の具体的な活動計画を提示してもらう。 | 推進員の協議会を開催して、そこでの話し合い結果を各校に伝えてきた。また、各校と推進員の定例の話し合いの場(11校中8校が実施)に市や公民館の担当職員が参加している。<br>協働活動について学級担任の理解がどの程度進んでいるかアンケートをとり、結果を各校と推進員に知らせた。<br>教育委員会で作成した「地域学校協働本部事業実践ハンドブック」を市内の教職員に配布して読んでもらっている。  | 協働活動の推進・充実のため、教職員や推進員に対する研修等の実施や地域学校協働本部事業実践ハンドブックの認知度を上げる。  | 地域学校協働本部事業実践ハンドブックの認知度                   | 40.6% | 90  | 99      | 令和7年度教職員の集いにおける地域学校協働活動(以下協働活動)において、地域学校協働活動推進員(以下推進員)に参加してもらった。また、3名の推進員には、自身が携わった協働活動について実践発表をしてもらった。また、推進員やボランティアへの依頼や手続きの仕方については、協働活動の趣旨や依頼の仕方等、ハンドブックを見せて、どこについているか知らせて、全員に渡してあるので見てほしいことを告げた。その結果、各校の管理職からの回答で、病休等で現在学校にいない職員を除いて全員が理解しているとの連絡があった。<br>さらに、県南地域の研修会で、協働活動についての仙北市の取組について発表したところ、ハンドブックの見本やデータがほしいとの3つの市と村から依頼があり、対応した。<br>年度当初の学校訪問の際は、市外からの異動者やハンドブックをなくしてしまった方の分を持参することで、全員が活用できる体制を維持する。   |                                      |
| 05215仙北市 | ②学校と地域の課題 | 05 その他             | 当市の地域課題として、人口減少・少子高齢化が挙げられる。中でも若者の定住を進め社会減を食い止めることや、少子化の中で適正な教育環境を確保することが課題となっている。子どもたちがふるさとに愛着や誇りをもてるような学習・体験活動の充実や、子どもたちの学校環境や教育活動に学校・家庭・地域がそれぞれの立場で関心をもって関わる機会の充実が求められ、施策が講じられている。                   | 各校のヤマメ・サクラマスプロジェクトに関わる行事や活動に運営協議会委員や推進員に関わってもらい、地域を巻き込みながら進められるように計画していく。<br>地域の方に、コミュニティスクールとして学校がどのような活動をしているかわかるように、協働活動や熟議についての広報活動を行う。<br>学校が地域対象の熟議を行う際に、地域の方々に参加を促す広報活動を行う。                            | 当市では令和7年度で全小・中学校がコミュニティスクールとなる。子どもの学びを充実させ、元気な地域づくりを進めるために、これまでも熟議等を通して学校・家庭・地域が意見を交わし、目標やビジョンを共有している。<br>教育委員会は、「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」として、地域を支える人材としての子どもたちの育成を、地域住民の協力を得ながら進めている。また、少子高齢化が進む中で、適正な子どもの教育環境を確保するための「学校適正配置」に向け、住民が参加しての意見交換が進められている。<br>各校で行われている熟議は、地域の方、保護者、教職員、中学生、6年生等話し合うテーマによって参加者が決まってくる。令和6年度は7回行っており、それ以降全協働本部で1回は熟議を行っている状況である。 | 各校が課題に対する地域や保護者、子どもの声を集める機会として、熟議を気軽に開催していくことができるようにする。  | 熟議が何回行われたかを指標とする。                        | 7回    | 15  | 6       | コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(以下協働活動)が両輪となり、地域と一緒に子どもたちを育てる取組等について市内全戸に広報を発行した。更に、市の広報に、毎月各校の協働活動への取組や熟議の様子を載せて、実践に参加したい方々は市の教育委員会に連絡してもらうようにした。<br>熟議については、学校の計画によって進んでいる。今年度、中学校では生徒と地域の方々の熟議を4校、小学校で保護者・地域の方の熟議を1校、全校生徒の熟議を1校実施した。昨年度末に実施した学校があったことや統合を控えて時間がとれない学校などがあり、熟議の実施数は少なかった。しかし、テーマが運営協議会で出た学校課題について情報を得ることや児童や生徒の希望を叶えるための熟議など、内容の濃い熟議が多かった。熟議後、実践が効果を生んで、学校評価が上がる取組が多かった。<br>なお、来年度は学校数が減っていくが、気軽に熟議を行うための方法等学校に提案していく。   |                                      |